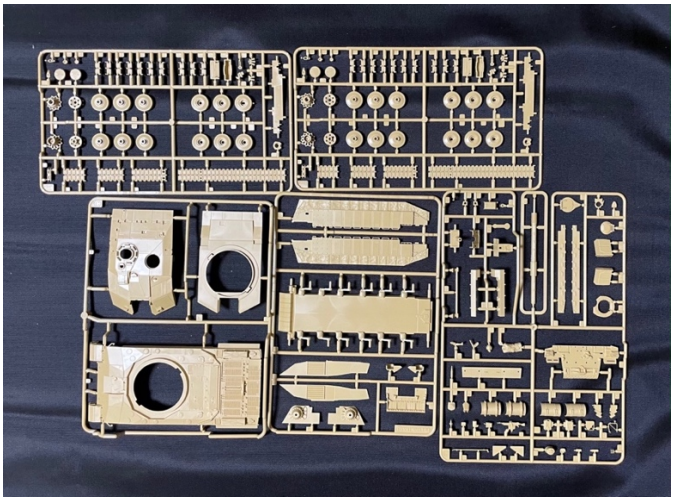
～タミヤ　1/48 イギリス主力戦車　チャレンジャー２イラク戦仕様～

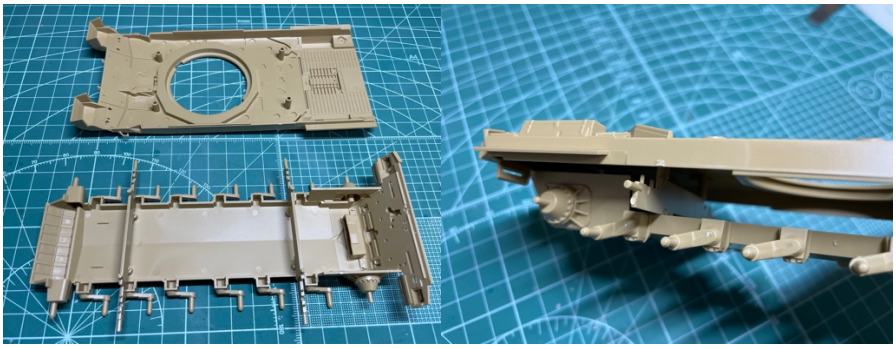
今回はタミヤ模型さんから上半期新製品として静岡ホビーショー２０２２で発表された完全新金型の 1/48 チャレンジャー２イラク戦仕様を製作しました。

（1）



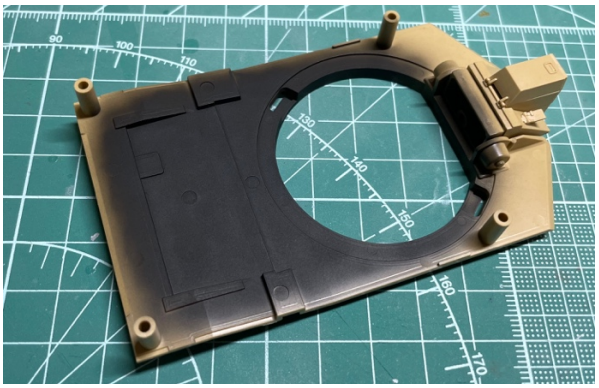
最初に、パーツ構成を確認します。スカートや車体などが極力一体化されていてパーツ数が抑えられている印象です。履帯は初心者にはやや難易度の高い接着式ですが、スカートに覆われていて見えない部分は省略されており大変組みやすくタミヤさんのビギナーへの心遣いが感じられます。
それではモチベーションを維持して一気に組み立てていきましょう！

（２）



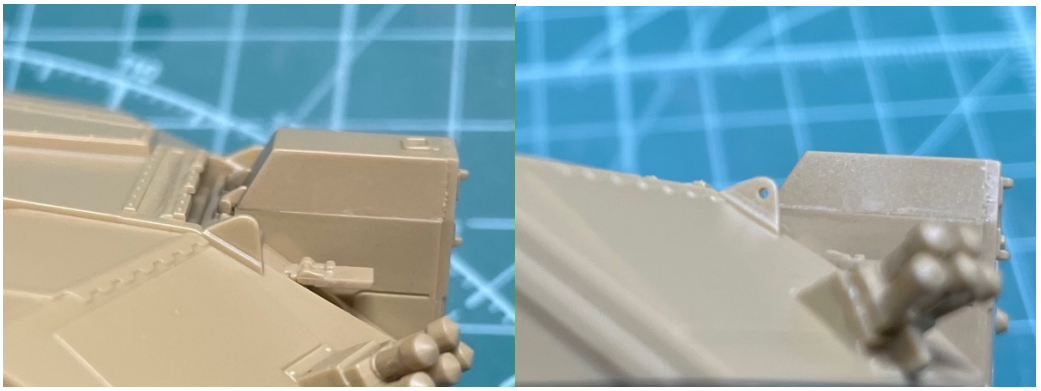
車体を組み立てていきます。ご覧の通り見えない部分は省略されており、接着の際ズレが生じないようにサポートの支柱が組み込まれています。パーツの合いは文句なし！吸い付くようにパーツ同士がくっついてくれます！この点もビギナーの方にタミヤさんのキットをおすすめする理由の一つです。

（３）



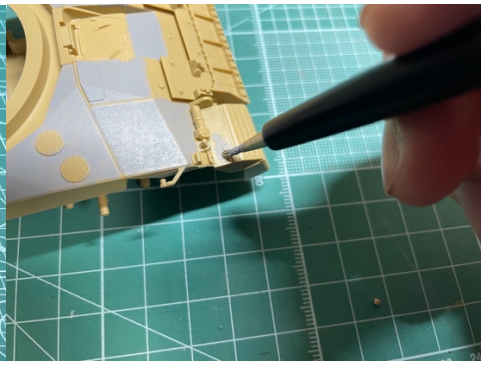
ここで一工夫。実車の車内は白く塗装されているのですが、ハッチを開けて完成させる場合は内部を黒く塗りつぶしておくと奥行きが演出されてそれらしくなります。

（４）



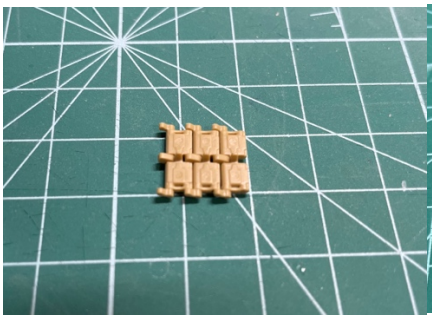
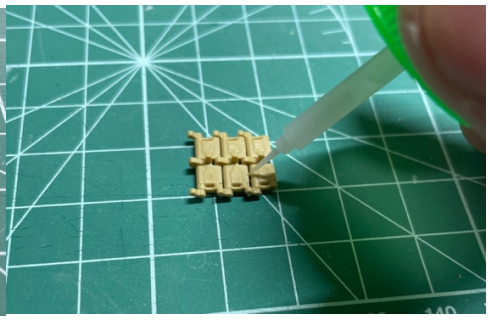
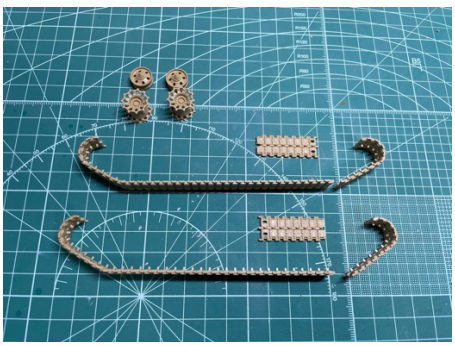
ここで少しディテールアップをします。砲塔上面のフックですが成型の都合上吊るすための穴が再現されていないのでピンバイスで開口してより本物の形状に近づけていきます。

（5）



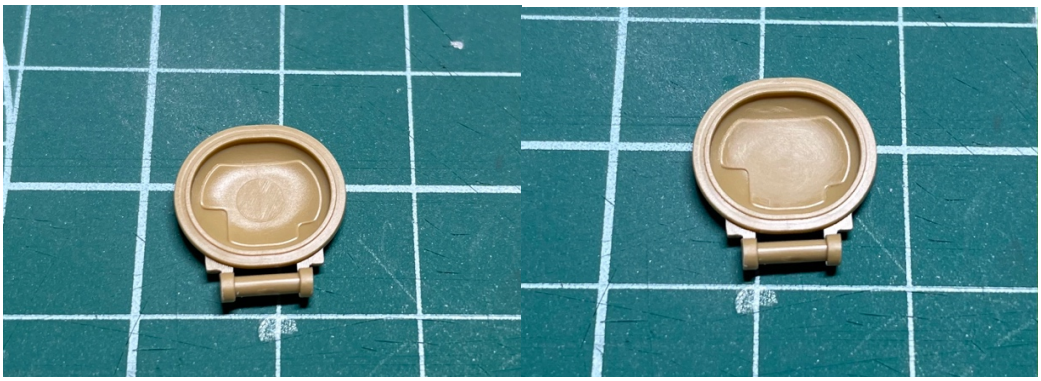
さらに、ここは好みの分かれる部分ですが、実車の車体と砲塔の上面には滑り止めのためにザラザラした加工が施されています。キットでは再現されていないので今回はサーフェイサーを用いて再現します。使用したのは　VIC hobby の水性プライマー［灰色］つや消しです。このサーフェイサーは水性なのでプラの表面を侵すことがなく今回のような塗りつける作業には最適です。これを写真のように筆で塗りつけてザラザラを表現します。

（6）

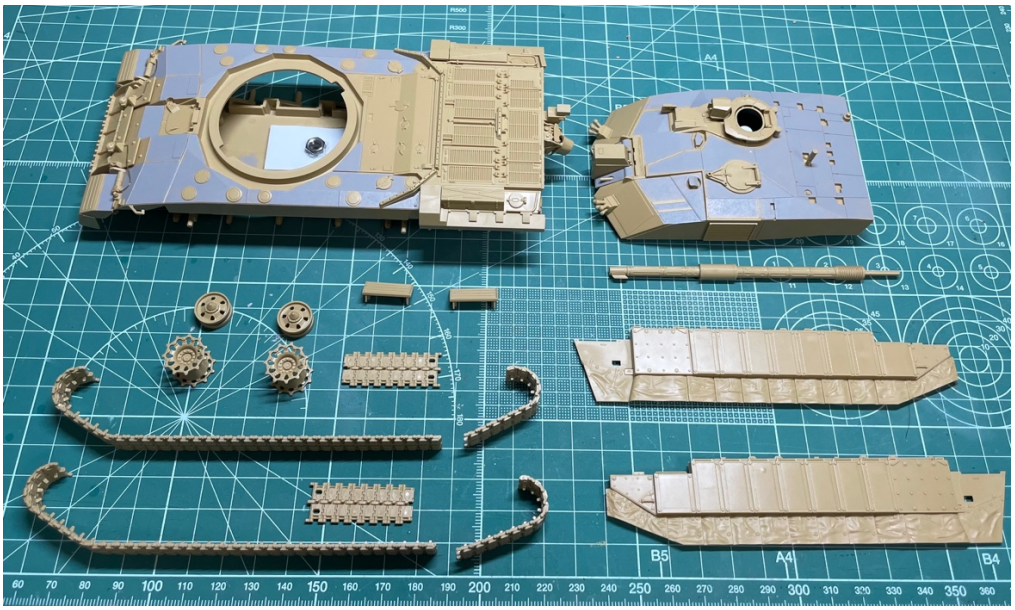
このキットの履帯は一部組み立て式の接着履帯です。組み立て部分は履帯が一コマごとに分割されています。これを並べて隙間に流し込みタイプの接着剤を流し込みます。そのまま放置してしまうと完全に固まってしまうので接着から５分ぐらい経過してから曲げます。この段階で履帯を完全に組み込んでしまうと後に塗装が大変になるので今回は写真のように履帯を３分割にして塗装し、塗装後に車体に組み込みました。

（７）



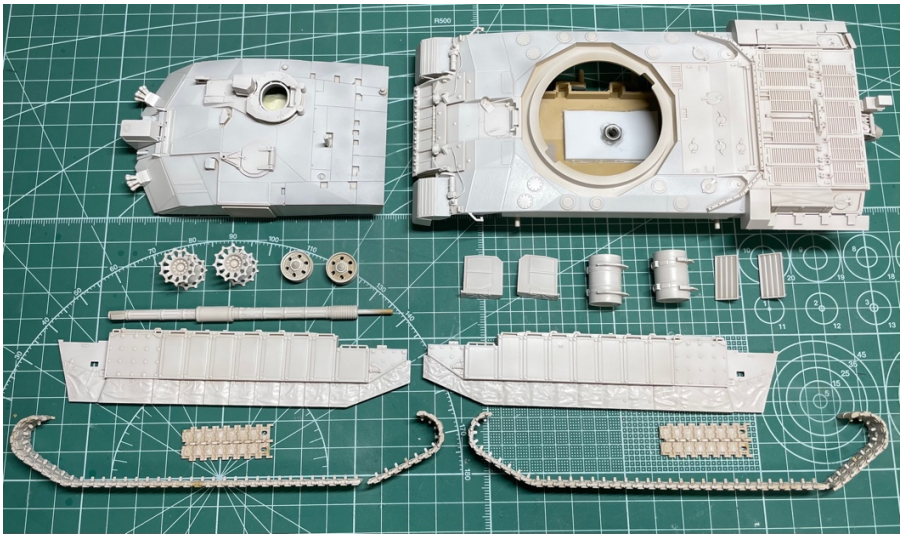
写真に写っているのはハッチのパーツです。よく見ると真ん中に丸いモールドがあります。これは押し出しピン跡と呼ばれる成型の都合上避けられない跡であり、実車にはこのような跡はないので紙ヤスリで丁寧に除去します。このキットで押し出しピン跡が目立つ箇所はこのハッチのパーツだけでしたので閉じて作る場合は安心して取り組まれると良いと思います。

（８）



組み立てが完了しました！塗装がしやすいようにいくつかのブロックに分けています。塗装後に履帯の接着をするので邪魔になるスカートも別にして塗装します。

（９）

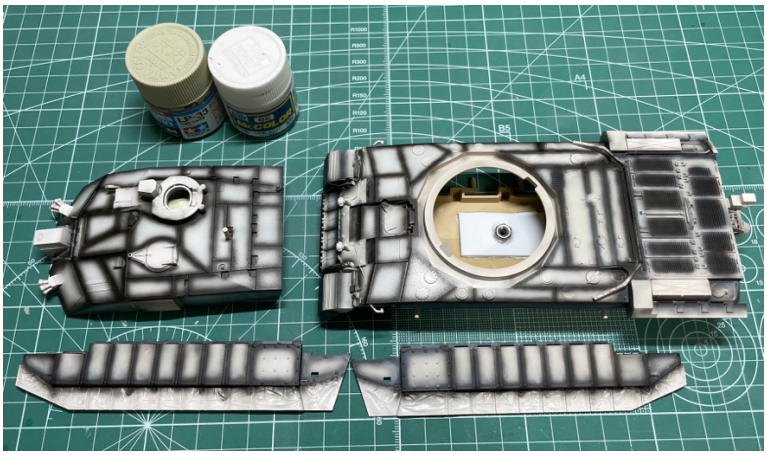


いよいよ塗装の工程に移るのですが、今回製作するチャレンジャー２はデザートイエロー１色の戦車であり説明書通りに純然と塗装してしまうと単調な仕上がりになってしまいます。そこで今回はプレシェーディングという技法を用いて車体の陰影を強調して仕上げたいと思います。まず、色を整えると同時にプレシェーディングの下地を作るため白の１５００番のサーフェイサーをエアブラシで塗装します。

（１０）

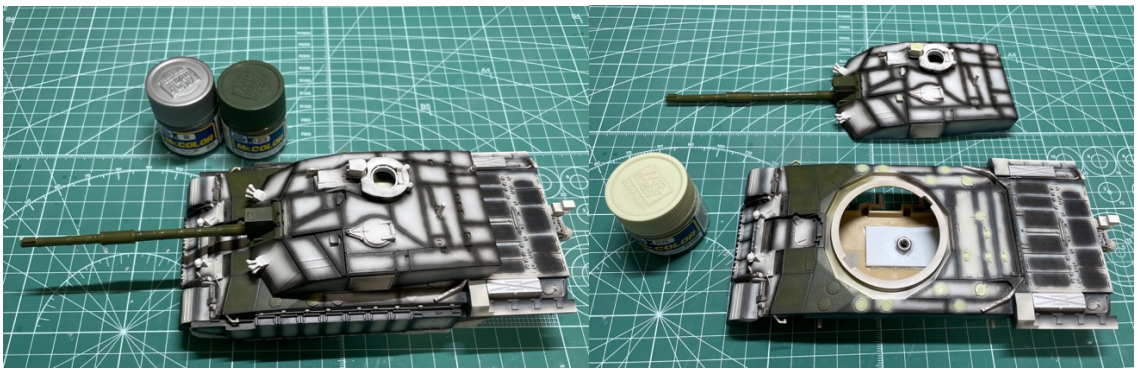
写真のようにパネルラインの部分やエッジの部分に黒をエアブラシで細吹きしていきます。平らな面は光が当たる面なので塗りつぶさないように吹きます。最終的に全て車体色で塗りつぶすので神経質にならず大雑把に吹いても問題ありません。

（１１）



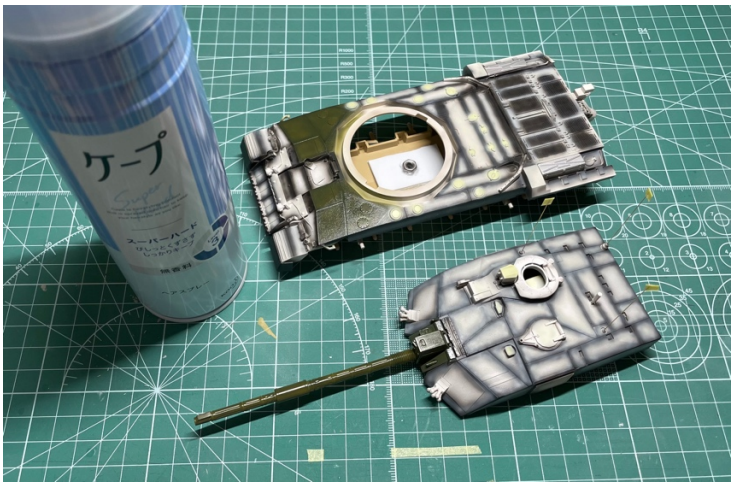
次に白と黒の中間となるグレー又はグリーンを白と黒の間に吹き付けてコントラストをマイルドにします。これも厳密に吹き付けるのではなくムラになるぐらいで問題ありません。

（１２）



さらにひと手間。今回はハゲ塗装も実践するつもりなのでハゲの下地となる色を部分的に吹き付けていきます。特にハゲの激しい車体前面の上部と防楯部分と砲身に Mr.COLOR 123 RLM83 ダークグリーンを塗装して。後部の雑具箱には Mr.COLOR 8 シルバー（銀）を塗装します。
また、写真にあるように燃料蓋のような特に明るくしたい箇所は Mr.COLOR 26 ダックエッググリーン（スカイ）を部分的に吹き付けて完成後により強調されるようにします。

（１３）

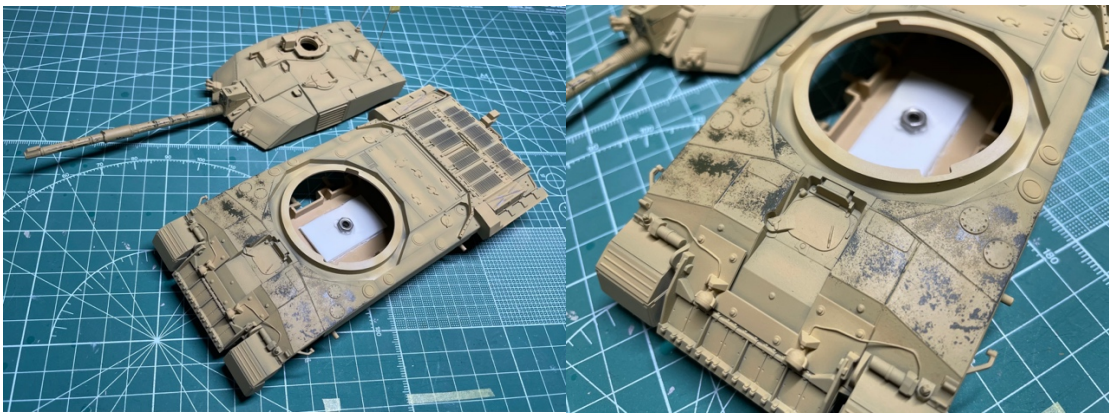


今回ハゲ塗装に用いるのは薬局等で入手できるヘアスプレーです。これを下地色の上から吹き付けてその上から車体色を塗装します。ヘアスプレーには塗膜を浮かせる効果があり、これを用いると実際のハゲが作れるので大変リアルな仕上がりになります。吹き付ける際は缶スプレーとして普通に吹き付けても良いですが、今回は紙コップに中身を取り出し、０.５ｍｍのエアブラシで吹き付けました。注意点として、この技法を用いる際はラッカー塗料ではなく水性塗料で行わないと十分な効果が得られない場合があります。

（１４）

工程の順番が前後しますが、車体色を塗った状態です。表面に水をつけることで先に塗ったヘアスプレーの層を溶解させ、塗膜を弱くします。そこでコシの強い筆やブラシ等を用いて剥がしていきます。気持ち良いぐらい剥がれるので剥がしすぎに注意です。

（１５）

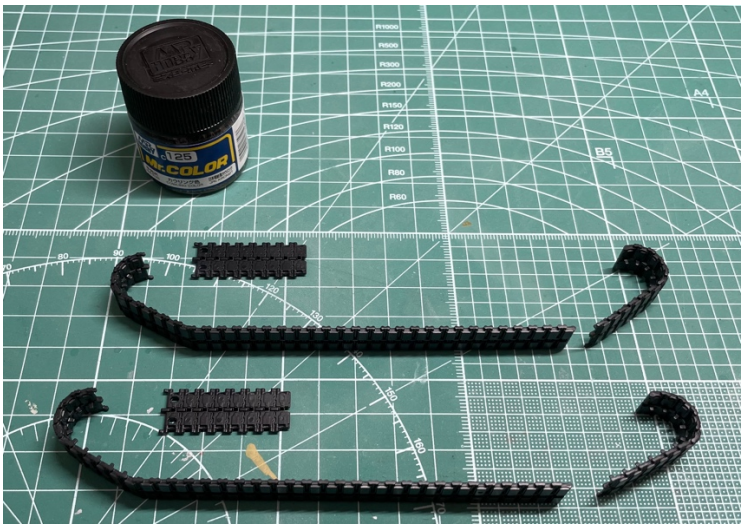


剥がし終わった状態です。我ながらリアルな感じに仕上がったと思います。砲身と車体後部の雑具箱も同様に剥がします。

（１６）

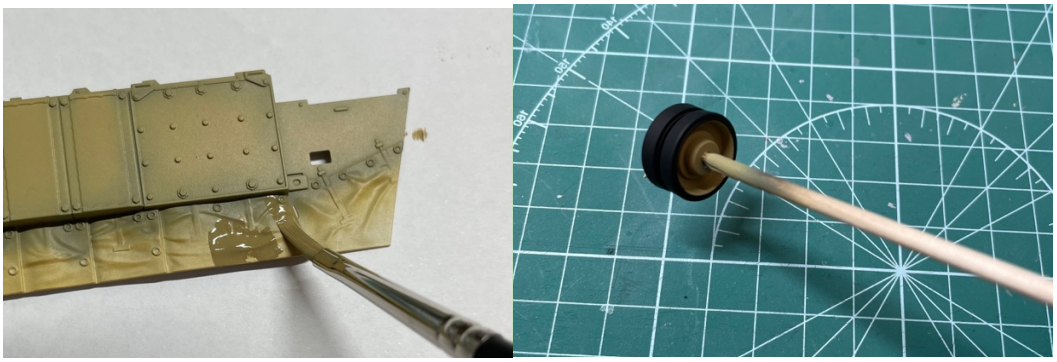
基本色の塗装です。先ほど説明したように今回は陰影をつけることを念頭に塗装を施します。使用した塗料はタミヤアクリルの XF-88 ダークイエロー２(ドイツ陸軍) です。そのままではわずかに暗く感じたので明度を上げるために若干の X-8 レモンイエローを混ぜています。今回は下地にプレシェーディングを施し陰影を強調しているのでそれを完全には塗りつぶさないように塗料を通常より薄めに希釈して塩梅を見ながら吹き付けています。

（１７）



履帯の塗装です。説明書ではラバーの部分を黒で塗り分けるように指示されていますが、手間がかかるということと最終的に砂汚れを施すという理由で今回は一色で塗りました。使った色は Mr.COLOR 125 カウリング色です。純粋な黒というのは色が強すぎるのでカウリング色やタイヤブラックといったわずかに色味の違う黒を用います。巷では履帯色といった塗料も販売されているのでそちらを使うのも一つの手です

（１８）

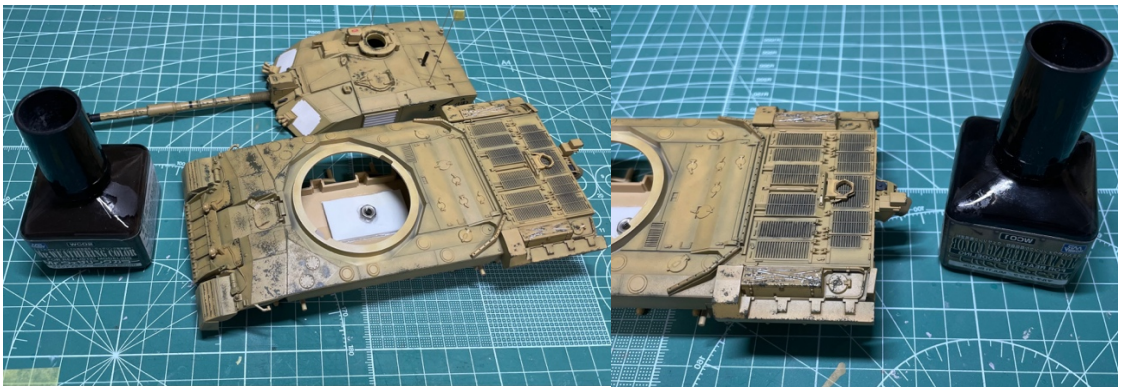


細部の塗り分けを行います。この場合は無理にマスキングしてエアブラシで塗装するよりも筆で塗装したほうが効率的です。スカートの布の部分を vallejo 70988 カーキで塗ります。完成写真を見ていただいたらお分かりになられるかと思いますが、vallejo の水性塗料は発色が大変良く、筆ムラも起こしにくいので筆塗りにおすすめです。転輪のラバーの部分も黒系の色を筆で塗りました。転輪は写真のように塗装棒やプラ棒に突き刺すと作業が大変楽になるので是非試されたい。

（１９）

基本塗装が終わりました！これからデカールを貼り付けてウェザリングを施すのですが、このようなハードな作業は塗膜に影響するのでラッカー塗料の半光沢クリアー（Mr.COLOR 181 スーパークリアー半光沢）を全体に吹き付けて塗膜を保護します。

（２０）



ウェザリングの第一段階です。油彩系の塗料をかなり薄く希釈して全体に塗りたくっていきます。こうすることで色のトーンが落ち着き、色味に重厚感が生まれます。さらに細かな隙間やディテールに色が入り込むことでモールドが強調されます。全体の色味を変えることから一般的にフィルターと呼ばれるテクニックです。今回使用した塗料は Mr.WEATHERING COLOR グランドブラウンです。さらに、エンジングリルの部分には同マルチブラックを用いてディテールを強調しています。

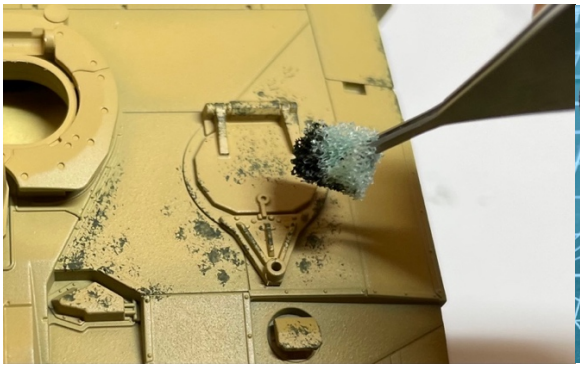
（２１）

デカールの貼り付けです。このキットに用いられているデカールはかなり薄く、繊細な代物だと感じました。あらかじめ貼り付ける箇所に２０００番以上のヤスリで磨いておくとデカールが浮いてしまうシルバリングなどのトラブルを防ぐことができます。先にも言いましたが、このような作業をするためにも先にクリアー塗料で塗膜を保護する必要があります。普段、デカールの水の拭き取りに綿棒を用いるのですがデカールが薄く何枚か破いてしまったので予備のデカールを使い、ティッシュでできるだけ力を加えず、丁寧に拭き取りました。このキットで唯一気を付ける点かと思いました。デカールを貼り終わったら再度半光沢クリアーを吹き付けてデカールを保護します。

（２２）

ここで少し、こだわった部分を紹介します。スカート側面に配置されているボックス状の物は爆発反応装甲と呼ばれる取り外し式の装甲ですので、何枚か色味の違う装甲が混じっていると後付けされている感じが演出できます。今回はエナメルのクリアーオレンジ(タミヤ　X-26 クリヤーオレンジ)を薄く希釈して何枚かをフィルターの要領で塗りました。仕上がりは完成写真を見ていただけると嬉しいです！また、爆発反応装甲の取り付けボルト部分は頭を明るめの色で塗ってワンポイントのアクセントにしています。

（２３）



チッピングです。チッピングとはハゲ塗装のテクニックの名前です。先ほどヘアスプレーを用いたチッピングを紹介しましたが、ここではさらに細かなチッピングを施します。そもそもチャレンジャー２は本来緑色の迷彩ですが、イラク戦争の際は砂漠に対応するためにデザートイエローで迷彩されています。そのため実車でも緑の迷彩が露出している車両があるので今回はチッピングの下地に緑を選びました。また、さらに深い傷を描き込む場合は金属を表現するシルバーや錆色を表現する艦底色を用います。今回用いたテクニックはスポンジチッピングと呼ばれるもので、食器用スポンジに塗料をつけてピンセット等で剥げそうな箇所に丁寧に叩きつけるように塗っていきます。また、車体全面の装甲板はタミヤ　XF-9 ハルレッドをスポンジチッピングを適用してより深い傷を表現しています。

（２４）

そして、次に砂埃を表現します。この戦車はイラクの砂漠地帯で活躍した車両なのでデザートイエロー系のピグメントと呼ばれる粉状のパステルを用います。用いたのは、vallejo 73103 ダークイエローオーカーと GSI クレオス　ウェザリングパステルセット１　サンドです。これを埃の付きそうな部分や窪んだ部分に載せて、油彩系の溶剤で定着させます。

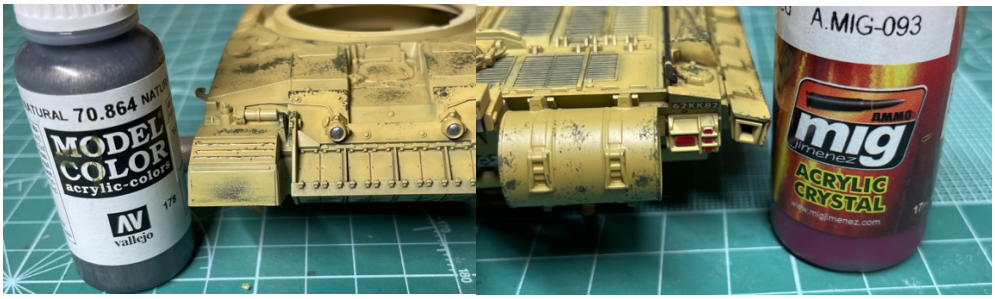
（２５）

埃表現だけではつまらないのでアクリルのクリヤー塗料（タミヤ　X-22 クリヤー）を用いて水が垂れている様子を再現しました。また、排気管部分はタミヤウェザリングマスターB（スノー・ススサビ）を用いてスス汚れを表現しています。

（２６）

さらに、タミヤ　ウェザリングマスターC（アカサビ・ガンメタル・シルバー）を用いてハッチの縁や誘導輪の内側の擦れ表現を行いました。

（２７）



最後にヘッドランプやテールランプ等の細かな装備品を塗って完成です。使用した塗料は vallejo 70864 ナチュラルスチール、AMMO of Mig jimenez A.MIG-093 クリスタルレッドです。

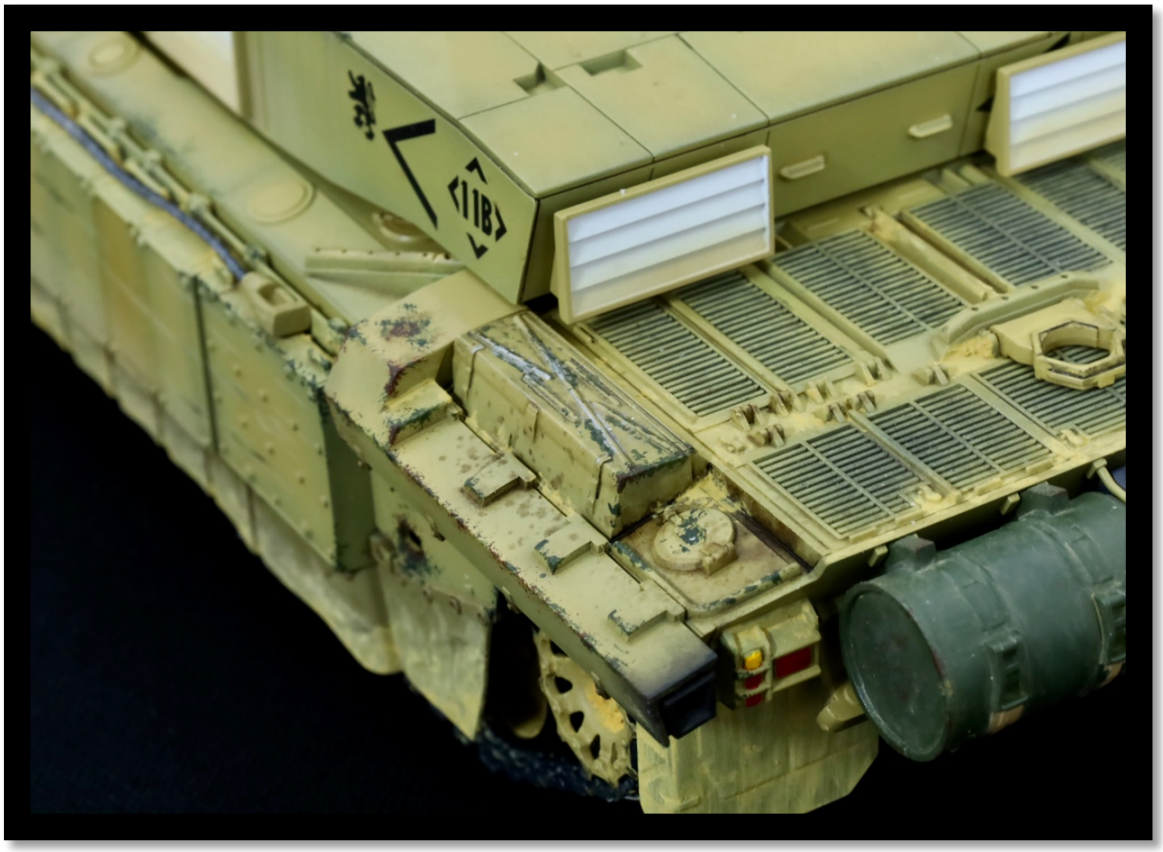
製作は以上です！お疲れ様でした！
感想としてはタミヤらしく非常に組みやすい構成に仕上げられており、砲塔前面の複雑な形状の CIP パネルがデカールで再現されているなど随所にこだわりを感じるキットでした。今回の製作では単色の砂漠迷彩が単調にならないように様々なレシピを投入しました。汚しと清潔感のバランスがうまく取れた仕上がりになったのではないかと自負しています。

製作・文　佐藤和輝

＜完成写真＞

11B

11B


11B

11B

11B